

上阿井町の地蔵堂

上阿井町の裏山の中腹に、町の人達が堂屋と呼んでいる地蔵堂がある。境内は三〇〜四〇平米もあろうか、その片隅に二m x 三m位のお堂がある。これが地蔵堂で、本尊は地蔵菩薩（じぞうぼさつ）である。高さは八〇センチ位である。堂内にはその他に、安永四年（一七七五）に松崎勘三郎氏によりまつられた立身菩薩がある。中段の格子の中に高さ三〇センチ位の弘法大師像があり、その上に大きく仁多郡十七番と記した札がある。かつて弘法大師仁多八十八カ所巡拝（札うち）の第十七番札所であった事がわかる。その他石像の大師像二体があり台座に七十八と七十九番の札所番号が刻まれている。参考までに記すと、大上のまわり堂近辺に仁多新四国四十六と四十九番があり、高尾に五十番代が二カ所ある事を確かめている。これにより、四国八十八カ所の遍路（四国以外は巡拝）のミニ版が仁多郡にも二通り以上あった事がわかる。

その他、小堂に一畑薬師がまつられ、もう一つの小堂は大師と思われる。堂の左片隅に直径五〜七センチの大玉の念珠（じゆず）が掛けられている。昔は信者が座して輪になり「ナムナムダブツ」を唱えながら、回して信仰したものと聞く。

堂外には高さ一五〇センチ位の立像



合掌体の大きな地蔵様がある。（天明以来の天災地変により死した多くの人々の供養の為、文政六年八月に落合佐助・松島利三太の発起によって建立されたもの）

その左に同じく石像の高さ一三〇センチ位の一畑薬師像がある。建立の世話人は駒原文兵衛・清水善市・安部良右衛門で、明治の初期頃に建立したものと思われる。他に小さな石像で地蔵・馬頭観音墓石が二〇体余り並んでいる。

お堂の中には、「南無大慈大悲観世音菩薩」「南無阿彌陀仏」と記された巡拝札が数枚宛貼られている。

総じて言うならこの地蔵堂内外には地蔵様を本尊とし、観音様薬師様に一般の方々の無縁仏様が寄り合っておられることになる。

この御堂での法要は近くの上町・本町・下町の集落の方が毎年交替で世話人となり、七月十八日に妙楽寺の住職様により大般若経をあげていただき全員の方々により供養と祈願が行われている。

尚、今の堂宇は、明治三十一年七月に本願櫻井博義・長瀬太五郎・世話人市場万次郎・細木藤五郎・駒原文太より再建されたものである。合掌

